

平成31年度（2019年度）新規研究課題

課題番号：6

課題名：情報通信技術(ICT)を活用した林業経営の効率化

研究期間：2019～2021年度

研究担当：林業技術部 林業研究室

1 研究の背景

- ・戦後造成されたスギ・ヒノキ人工林が資源として成熟し、今後は、主伐(皆伐)を積極的に進めていくことが必要となる中、素材生産コストの削減による林業の収益性の向上が急務となっている。
- ・一方、近年の情報通信技術(ICT)の技術革新に伴い、林業分野においても、高精度な森林情報の効率的な把握や、生産現場における無駄のない工程管理など、新たな生産管理手法に関する研究が進められている。
- ・今後は、県内の木材生産を担う中核経営体を核に、これら新技術を活用した経営の効率化を進め、需要に的確に応える生産力の増強を図ることが重要となる。

2 目的

情報通信技術(ICT)を活用した“新たな生産管理手法”の導入により、中核経営体の生産性や経営効率を高め、本県の木材供給体制を強化する。

3 研究内容

- (1) 効率的で正確な森林情報の把握と活用（情報の見える化）
 - ア レーザー計測等を活用した遠隔探査技術の導入による、調査業務の超省力化とこれにより取得した高精度な森林情報の検証を実施する。
 - イ 上記情報と既開発ソフト等を活用した素材生産計画立案支援システムの検証を実施する。
- (2) 生産現場における工程管理の効率化（現場の見える化）

現場作業情報と既開発ソフト等の活用による総合的な工程管理システムの検証を実施する。

4 研究のポイント

ICTを活用した“新たな生産管理手法”の普及・定着により、中核経営体の経営効率化による素材生産力の増強の効果が期待される。

5 普及に向けたスキーム

- ・研究成果は、早期定着を図るため、研修と連携し、研修カリキュラムに組み込む。
- ・技術普及を促進するため、研修会を開催する。
- ・研究で得られた新技術は、地域林業を主導する行政職員や中核経営体職員等を対象とした「林業指導者の育成」にも活用する。

情報通信技術(ICT)を活用した林業経営の効率化

研究期間：2019～2021年度

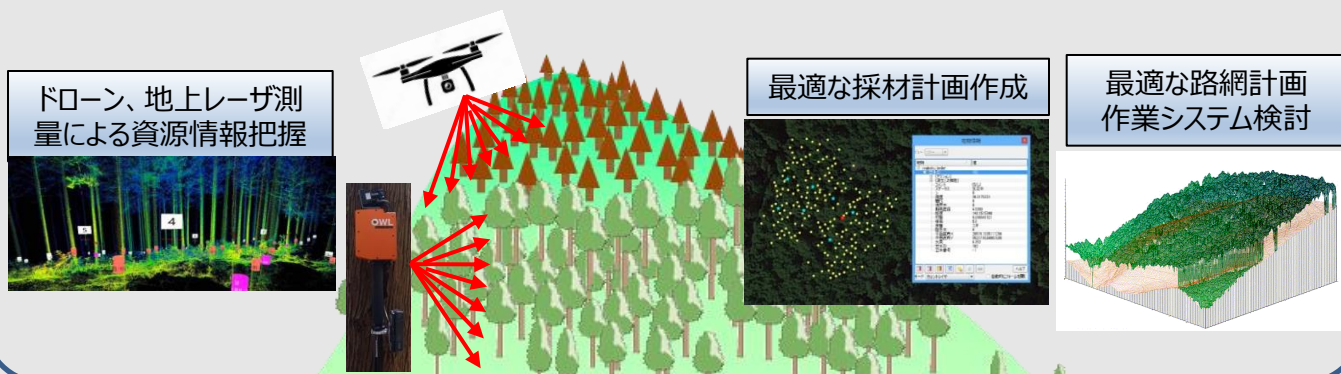
研究担当：林業技術部 林業研究室

【目的】

ICTを活用した“新たな生産管理手法”の導入により、中核経営体の経営効率を高め、木材供給体制を強化する

【研究内容】

○効率的で正確な森林情報の把握と活用（情報の見える化）



○生産現場における工程管理の効率化（生産現場の見える化）



【到達目標】

- 現場調査等の効率化による人件費**30%**削減
- 労働生産性（主伐）**60%**向上



中核経営体の経営効率化による素材生産力の増強